

令和6年度 昭島市立清泉中学校
社会 年間指導計画、評価規準〔第2学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	6	中世の日本 (2)ユーラシアの動きと武士の政治の展開 【歴史的分野】	南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。	中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。
		4	中世の日本 (2)ユーラシアの動きと武士の政治の展開 【歴史的分野】	南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。	中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。
	5～7	18	(2)日本の地域的特色 【地理的分野】	日本の自然環境や産業の特色を分布や地域などに着目して多面的・多角的視野を持って追究し、表現する。	日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、さまざまな資料を活用し、理解している。	日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色の変化や課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の地域的特色について、身近な地域や生活との関わりに着目して、そこに見られる課題について主体的に追究しようとしている。
		6	4近世の日本 (1)ヨーロッパ人との出会いと全国統一 【歴史的分野】	ヨーロッパ人の来航を、ヨーロッパ社会の変化と関連させて理解させ、鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易などが日本に与えた影響を理解する。	戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解し、その知識を身につけている。対外関係や文化に関する資料を収集するとともに、情報を適切に選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。	ヨーロッパ文化が日本の社会におよぼした影響を、キリスト教や鉄砲の伝来、南蛮貿易に注目して、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に対する関心を高め、意欲的に追究している。
2	9～10	6	4近世の日本 (1)ヨーロッパ人との出会いと全国統一 【歴史的分野】	ヨーロッパ人の来航を、ヨーロッパ社会の変化と関連させて理解させ、鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易などが日本に与えた影響を理解する。	戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解し、その知識を身につけている。対外関係や文化に関する資料を収集するとともに、情報を適切に選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。	ヨーロッパ文化が日本の社会におよぼした影響を、キリスト教や鉄砲の伝来、南蛮貿易に注目して、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に対する関心を高め、意欲的に追究している。
		14	(3)日本の諸地域 【地理的分野】	日本の諸地域について様々な資料を活用して調査発表をする。	人々の生活に影響を与える風土について産業の特徴、地域間のつながり、歴史的背景を理解し、様々な資料を活用して調査方法をまとめ、発表することができる。	日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	11～12	4	(2)江戸幕府の成立と対外政策 【歴史的分野】	日本の近世について、諸外国とのつながりとともに理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		6	(2)江戸幕府の成立と対外政策 【歴史的分野】	日本の近世について、諸外国とのつながりとともに理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		14	(3)日本の諸地域 【地理的分野】	日本の諸地域について様々な資料を活用して調査発表をする。	人々の生活に影響を与える風土について産業の特徴、地域間のつながり、歴史的背景を理解し、様々な資料を活用して調査方法をまとめ、発表することができる。	日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
			(3)産業の発展と幕府政治の動き 【歴史的分野】	産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している	産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3	1～3	8	5開国と近代日本の歩み (1)欧米における近代化の進展 (2)欧米の進出と日本の開国 (3)明治維新 (4)日清・日露戦争と近代産業【歴史的分野】	近代国家の形成、国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・近代(前半)の日本と世界を大近代(前半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動き、開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮、明治維新、自由民権運動、日清・日露戦争、条約改正、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	近代(前半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		15	(3)日本の諸地域【地理的分野】	日本の諸地域について様々な資料を活用して調査発表をする。	人々の生活に影響を与える風土について産業の特徴、地域間のつながり、歴史的背景を理解し、様々な資料を活用して調査方法をまとめ、発表することができる。	日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
		4	(1)身近な地域の調査【地理的分野】	市町村規模の地域調査に関する技能を身につけ、地域社会の課題を見出し、関心を持つ。	地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
評価基準			評価方法	定期考査、小テスト、プリント(地図、グラフ、年表、資料の読み取り等)	定期考査、プリント、発表(感想文・レポートによる論述、意見交換等)	提出物の内容(プリント、問題集、レポート、事前・事後学習等)、授業態度(発言等)	
			上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に			「A: 十分満足できる」 「B: おおむね満足できる」 「C: 努力を要する」 80%以上の達成率＝A 50%～80%の達成率＝B 50%未満の達成率＝C の3段階で評価する	